
大学教育学会ニュースレター

No. 89 2012. 1. 31

大学教育学会 (*Liberal and General Education Society of Japan*)

事務局 : 桜美林大学淵野辺キャンパス内

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

TEL/ FAX : (042) 704-7014

郵便振替口座:00120-4-178891 大学教育学会

e-mail: ungakkai@gmail.com URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

大学教育学会 第34回(2012年)大会

統一テーマ 「転換期の大学教育」

大学教育学会第 34 回大会企画委員長

細川 敏幸 (北海道大学)

(大会の趣旨)

日本の大学はこの 10 数年、18 歳人口の減少や経済の停滞で、財源や入学志願者の確保など大きな経営課題に直面してきました。拡大した高等教育は、産業構造の変化に対応して職業への移行をどう果たすかという大きな課題も抱えています。加えて 2011 年 3 月の東日本大震災と、それによって誘発された福島第一原子力発電所の事故は、エネルギーの需給関係のみならず、日本社会の仕組みを変えてしまう可能性さえ感じさせます。日本の高等教育が抱えている矛盾は、このことによって加速されることはあっても緩和されることはないでしょう。転換期の大学にいま厳しく求められているものは、教育の達成目標と成果の可視化です。

この大会では、それを推し進めるための教育情報の在り方、および時代の変化に適応するための市民の科学的素養を高める方策を明らかにすることを主要な目標とします。

1. 開催日時および会場

期日 2012年5月26日 (土)、27日 (日)

会場 北海道大学高等教育推進機構

住所: 札幌市北区北17条西8丁目 (地下鉄南北線北18条駅より西に向かって約7分)

2. 大会日程

(概要)

第1日：5月26日（土）

8:30	9:00	9:30	12:10	13:10	14:10	14:20	15:30	18:00
受付開始		ラウンドテーブル	昼食	総会		基調講演	自由研究発表 I	懇親会
	↑				↑			
	オリエンテーション			開催校あいさつ				

第2日：5月27日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:00	15:15
受付	自由研究発表 II	昼食	シンポジウム I・II		
				↑	
				次期開催校あいさつ・閉会	

* この表では、休憩時間はその前のセッションに含まれて表示されていません。詳しくは、下の表でお確かめ下さい。

(進行時間の詳細)

第1日目 5月26日（土）

- 8:30～ 受付開始
- 9:00～ 9:20 初めて参加する人のためのオリエンテーション（20分）
- 9:20～ 9:30 休憩（10分）
- 9:30～12:10 ラウンドテーブル（160分）
- 12:10～13:10 昼食（60分）
- 13:10～14:00 総会（50分）
- 14:00～14:10 休憩（10分）
- 14:10～14:20 開催校あいさつ 北海道大学総長 佐伯 浩（10分）
- 14:20～15:20 基調講演 北海道大学名誉教授・ノーベル賞受賞者 鈴木章（60分）
- 15:20～15:30 休憩（10分）
- 15:30～18:00 自由研究発表 I（150分）
- 18:00～20:00 懇親会（生協北部食堂）開会の挨拶 北海道大学副学長 山口佳三

第2日目 5月27日（日）

- 8:30～ 受付開始
- 9:00～12:00 自由研究発表 II（180分）
- 12:00～13:00 昼食（60分）
- 13:00～15:00（120分：並行開催）
 - ・シンポジウム I：「学士課程教育の質の改善と教育情報」
 - ・シンポジウム II：「転換期における科学リテラシー教育の課題」
- 15:00～15:15 次期開催校あいさつ・閉会（15分）

関連行事

5月25日(金)

理事会 16:00~18:00 (北海道大学情報教育館3階スタジオ型多目的型中講義室)

理事会懇親会 18:30~ (同上)

5月27日(日)

常任理事選出のための特別理事会 12:00~13:00 (同高等教育機構大会議室)

3. 総会

議長 総会参加者の互選による

4. 基調講演

演題: 「ノーベル化学賞への道」

講師: 鈴木 章 (北海道大学名誉教授・ノーベル賞受賞者)

司会: 小笠原正明 (本学会会長・北海道大学名誉教授)

概要: 2010年にノーベル化学賞を受賞した鈴木 章氏は、生活に身近な素材や薬品を生み出す有機合成化学の革新をなしとげました。大学では数学を専攻するつもりだったが、教養時代にフィーザーの教科書“Organic Chemistry”に出会い、人間が必要とするものを人為的に作り出す有機化学を究めてみたいと、有機化学教室に入りました。この講演では、化学を志すに至った経緯、1960年代の米国での生活の様子や日米の研究室の比較、ノーベル賞受賞にいたる経緯やクロス・カップリング反応について簡単に説明して戴く予定です。

5-1. シンポジウム I 「学士課程教育の質の改善と教育情報」

趣旨: 学校教育法施行規則の改正で2011年4月からすべての大学に教育情報の公開が義務づけられ、ウェブサイトなどを通じて大量の教育情報が発信されるようになりました。このこと自体画期的といえますが、それによりわが国の学士課程教育に固有の問題が浮き彫りになり、教育情報の作成・公開を学士課程教育の質の改善にどのように結びつけるかという新たな課題も生じています。

ここでは、学士課程教育のアウトカムに力点を置きながら、教育の質の改善を目指して、学士課程を横断する基礎的分野のプログラムをどのように構築するか、直接評価(GPA)あるいは間接評価(学生調査)を通して見た学生の学び、認証評価からみた学士力の実質化などについて、具体的な議論を行います。

〈プログラム〉

- ・「学士課程教育のプロセス評価から学生の学びをみる」山田 礼子 (同志社大学)
- ・「学士課程教育の質改善に寄与する高機能 GPA のエビデンス」半田 智久 (お茶の水女子大学)
- ・「学士課程教育における数学力育成の取組について」高橋 哲也 (大阪府立大学)
- ・「学士課程教育と学士力の実質化—認証評価からみた現状と課題—」工藤 潤 (大学基準協会)

司会: 佐藤 浩章 (愛媛大学)・安藤 厚 (北海道大学)

5-2. シンポジウムⅡ「転換期における科学リテラシー教育の課題」

趣旨：東日本大震災によって引き起こされた津波と原発事故による被害は、これからの日本の社会の在り方に甚大な影響を及ぼすと思われます。自然災害を広い科学的視野からとらえること、核や放射線の問題を宇宙や元素の起源にまでさかのぼって深く理解すること、社会の構成員がそれぞれの考えで自分自身の立場を明らかにすることなどが、これまで以上に求められています。市民としての科学的素養すなわち科学リテラシーの水準を高めることが、国にとっても重要な課題となっています。

ここでは、災害時において科学リテラシーにかかわる運動はどのように実践されたか、市民と大学をつなぐ科学コミュニケーターの養成はどのように行われているか、高校との接続を含めて大学の科学リテラシー教育はどのようになされるべきかを議論します。

(プログラム)

- ・「市民教育の実践」：木村真三（獨協医科大学）
 - ・「科学技術コミュニケーターの養成」：石村 源生（北海道大学）
 - ・「科学技術教育の課題と展望」（仮題）：塚原 修一（国立教育政策研究所）
- 司会：鈴木久男（北海道大学）

6. ラウンドテーブルの趣旨と評価

(趣旨)

本学会は、多様な専門分野の方々が集まって大学教育に焦点をあててその充実を図ることを大きな目標の一つに掲げています。ラウンドテーブルは、会員の研究活動を活性化し、さらに学会全体で共有できる研究課題を発掘するために大会の一環として始められたものです。ラウンドテーブルの企画に当たっては、企画者だけではなく発表者（発題者、話題提供者等）も原則会員とすることは当然ですが、なるべく個別の専門分野ないしは個別の機関に限ることなく、複数の教育研究機関にわたるようご配慮下さい。

(評価の項目)

常任理事会に設けられた「課題研究・ラウンドテーブル検討ワーキンググループ」は、この方針に沿ってラウンドテーブルから課題研究への道筋を検討中です。本大会では、試験的に以下の項目を中心に総合的に評価し、本学会の課題研究集会としてふさわしいテーマを発掘することを計画しています。

- 1) 発表者の所属機関の多様性
- 2) 参加者数
- 3) 成果の発表状況（論文、シンポジウムでの報告、出版等）

(申込み・調整および報告)

ラウンドテーブルの申し込みについては、「自由研究およびラウンドテーブルの申し込みについて」をご参照下さい。ラウンドテーブル全体の調整・とりまとめは大会企画員会が行います。また、ラウンドテーブルの企画者は、事後大学教育学会誌にご報告いただきます。

7. 「自由研究」申し込み要領

- 1) 持ち時間：発表 15 分と質疑応答 5 分の計 20 分
- 2) 申し込みの題名と要旨を参考に、実行委員会が会場分けを行います。
- 3) 会場ごとに全発表の終了後に「総合討論」の時間を設けます。発表者は必ず総合討論にご参加下さい。
- 4) 共同研究の成果を発表される場合、スピーカーは本学会員に限ります。ただし「発表要旨集録」には共同研究者として非会員の氏名も記載することができます。
- 5) 団体会員の資格で発表する場合は、団体名での発表になります。電子申請の際の発表申し込みの画面で必ず所属機関名をご記入下さい。

8. 委員会名簿

大会企画委員会

委員長	細川 敏幸 (北海道大学)	委員	目 修三 (八戸工業大学)
委員	安藤 厚 (北海道大学)		羽田 貴史 (東北大学)
	宇田川拓雄 (北海道教育大学)		堀井 泰明 (天使女子大学)
	小野 滋男 (北海道医療大学)		山田 礼子 (同志社大学)

大会実行委員会

委員長	山口 佳三 (北海道大学副学長)	委員	杉山 滋郎 (北海道大学)
副委員長	阿部 和厚 (北海道医療大学・ 北海道大学)		鈴木 久男 (北海道大学)
			鈴木 誠 (北海道大学)
委員 庶務	山田 邦雅 (北海道大学)		西森 敏之 (北海道大学)
委員	上野 岳史 (酪農学園大学)		長谷川 誠 (千歳科学技術大学)
	大和田秀一 (酪農学園大学)		森元 拓 (北海道医療大学)
	木村 純 (北海道大学)		四方 周輔 (東海大学)
	志水 幸 (北海道医療大学)		

自由研究およびラウンドテーブルの申し込みについて

申し込みの要領

○申し込み期間：2012年2月1日（水）～2月20日（月）

（大会開催時期が早まった関係で、例年より10日ほど前倒しになっていますのでご注意ください。）

○申し込み方法：原則として学会ウェブサイトの「会員ページ」からの申し込みとなります。このページには同サイト（<http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>）の「会員ページログイン」部分からお入り下さい。（次ページの申し込み手順を参照。）

※ウェブサイトをご利用にならない場合は、大会実行委員会宛に郵送して下さい。申し込みに必要な内容は以下の通りです。

- 1) 申し込み者の会員番号
- 2) 氏名、氏名フリガナ
- 3) 同メールアドレス
- 4) 発表の種別（「自由研究」または「ラウンドテーブル」、自由研究の場合は下に示す「カテゴリー」欄から1つを選んで記載）。
- 5) 発表題目
- 6) 発表内容の概要

【カテゴリー】

1. 学士課程教育；2. 教育方法・授業改善；3. 初年次教育；4. 情報系・理数系教育；
5. 高大連携・高大接続；6. 学生支援；7. キャリア教育；8. 大学運営；9. 教職協働・教職員能力開発；10. その他

※このカテゴリーは暫定的なもので、実際の発表においては分割または統合される場合がありますのでご了承下さい。「会員ページからの申し込み手順」においても同様です。

「会員ページ」からの申し込み手順

1) 会員ページ入口でIDとパスワードを入力し、ログイン後、「大会発表の応募」に進みます。

※パスワードをお忘れになった方は、学会事務局（メールアドレス：ungakkai@gmail.com）にお問い合わせ下さい。

2) 「大会発表の応募」にログインすると、申込者の会員番号、氏名、氏名フリガナ、メールアドレスが表示されますのでご確認ください。

3) 「発表の種別」で、「自由研究」または「ラウンドテーブル」を選択して下さい。

4) 「自由研究」「ラウンドテーブル」とともに、登録内容は以下の通りです。

- ・発表題目をご記入下さい。
- ・発表内容の概要は日本語で300字程度、または英字（半角）で120語程度でご記入下さい。

- ・「自由研究」については「大会発表の応募」の「カテゴリー」の選択ボックスから1つだけ選択して下さい。
- 5) 「自由研究」「ラウンドテーブル」とともに発表の可否が決定されますと、「可否通知メール」が申込者宛に送信されます。許可された場合は、会員ページの「お知らせ」欄に表示される要旨原稿の提出案内に従い、原稿を**4月15日（日）**までにアップロードして下さい。（ウェブサイトをご利用にならない方には、別途ご案内申し上げます。）
- 6) ラウンドテーブルの企画者は発表者の氏名、氏名フリガナ、所属についても要旨集録原稿に掲載して下さい。

郵送の際の宛先および発表申込みに関してのお問合せ先は、下記のとおりです。

第34回大会に関するお問い合わせ

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
北海道大学高等教育推進機構 高等教育開発研究部門気付
大学教育学会第34回大会企画実行委員会
庶務担当 山田 邦雅
電話：011-706-7520（秘書室）
e-mail: gakkai@high.hokudai.ac.jp

※メールの件名、封筒の表書きには、「自由研究」「ラウンドテーブル」または「大会発表に関する問い合わせ」とご記入下さい。

お願い（重要）

会費納入状況に基づく発表および企画の資格を確認するため、会員番号の記載を義務付けております。学会名簿をご参照のうえ、ご記載願います。

なお会員番号が不明な場合は、学会事務局(042)704-7014 までお問い合わせ下さい。

大会への参加申し込みについて

「会員ページ」からのお申し込み

3月1日より、本学会ウェブサイトの「最新情報欄」に「大学教育学会第34回大会のご案内」が掲載される予定です。同記事より、「大学教育学会第34回大会（北海道大学）参加フォーラム」へアクセスができます。同フォーラムの指示にしたがってお申し込み下さい。

大学教育学会 URL <http://www.daigakukyoku-gakkai.org/>

FAX. 郵便でのお申し込み

3月下旬発行予定のニューズレターNo. 90 とともに、各会員あてに「参加申込書・要旨集申込書」が送られますので、必要事項をご記入の上、実行委員会事務局（住所は上に記載）までお送り下さい。

＝事務局から＝

● 役員選挙について

2012年4月に学会の役員選挙が予定されています。選挙要領、被選挙人名簿、投票用紙などは次回のニュースレター(3月下旬発行予定)に同封いたします。

これに伴い、被選挙人名簿の整理を行います。

① 年度末(2012年3月31日付)で退会意志のある方は、2月末日までに事務局にご連絡くださいますようお願いいたします。また、

② 会員登録情報に変更がある方は、学会ウェブサイト上の会員ページより変更を至急お願い申し上げます。

● 選挙管理委員会の設置について

学会役員選挙に備え、常任理事会にて選挙管理委員会が設置されました。

【選挙管理委員】 松岡信之(委員長)、小野滋男、香西敏器、寺崎昌男、安岡高志

● 会費納入のお願い

今年度(2011年度)の会費が未納の方および過年度の会費・会誌代が未納の方々は、**2月24日(金)**までにご入金ください。(領収証につきましては、郵便払込票の受領証をもって代えさせていただきます。)

なお、入金状況について不明な方は、メールもしくはFAXにて会員番号を明記の上、事務局までお問い合わせください。

年会費等郵便振替口座 00120-4-178891 「大学教育学会」

ご入金はなるべく郵便払込取扱票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、お手数でもご入金前に必ず事務局までその旨ご連絡ください。

● 大学教育学会第34回(2012年度)大会参加申込みについて

本号のニュースレターでは、自由研究発表やラウンドテーブルの企画の申込みについてご案内申し上げましたが、大会への参加申込みにつきましては、次号のニュースレター(3月下旬を発行予定)にてご案内いたします。

● 2012年度課題研究集会について

2012年度課題研究集会(開催校:島根大学)は、11月24日(土)～25日(日) くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)にて開催予定です。

● 住所変更の届出についてのお願い

定期刊行物は、主にヤマトメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。

このような事情をご理解の上、変更が生じた場合、迅速に会員登録情報の変更申請を学会ウェブサイト上の会員ページよりお願い申し上げます。

● 次期事務局について

2012年5月28日(月)からも、引き続き、現在の桜美林大学淵野辺キャンパス内に設置される予定です。

● 事務局業務一部外部委託について

2012年4月1日より「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」についての事務局業務が外部委託され、お問い合わせ先が変更される予定です。その他のお問い合わせにつきましてはこれまでどおり学会事務局にて承ります。

なお、2012年度会費請求書は、次号ニュースレター(3月発行)ではなく、5月に発行予定の学会誌第34巻第1号に同封させていただきます。



【学会事務局】

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

桜美林大学 淵野辺キャンパス3階

Tel/Fax: 042-704-7014

E-mail: ungakkai@gmail.com

URL: <http://www.daigakukyoyoikugakkai.org/>